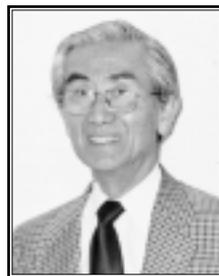


## 故 植村 猶行 様

横 井 政 人



弔辞  
私は千葉大学で、故植村さんの5年後輩の横井でございます。

植村先輩、今われわれは深い悲しみのうちに、先輩にお別れ申し上げなければなりません。昭和56年花葉会発足後、今年のはじめまで、この花葉会にご出席になり、いろいろ貴重なご意見を聞かせていただいております。

それが今、永久のお別れになる、ご挨拶をすることになるとはまったく想像もできませんでした。

いつも背筋が伸び、大きなお声でお話し、ほとんどお年のことを感じさせない先輩。どんな会合にもりっぱな写真機を持って写真を撮る先輩の姿をうらやましく思っておりました。

花葉会の会誌に、故人が「緑の下の力持ちに徹した人生」と題して自叙伝を書かれておりますが、本や雑誌の編集者として、ほんとうに着実、堅実、手堅く地道にお仕事をこなしてこられた先輩にぴったりのタイトルといえるでしょう。

故人の勤務先は園芸図書の出版会社、誠文堂新光社でありましたが、ここで大きな園芸大辞典や図鑑を作り上げていらっしゃいます。堅実な先輩の力がなかったらできなかつたかもしれませぬ。雑誌でも『ガーデンライフ』という月刊誌の編集長として、長期間発行し、戦後の園芸界の発展にたいへん貢献いたしました。

一つエピソードを申し上げます。

12年前、イギリスに花や葉の美しいペゴニアを見に、二人で参りました。そのとき、レンタカーで高速道路を走ると、時速180キロぐらいになりました。このぐらいのスピードが出ますと、自動車が浮くような感じになります。

そのとき先輩が「陸軍士官学校の練習機に乗っているようだ」といわれましたが、私とはわずか6歳の差であ

りますが、戦争体験の有無を強く感じました。ちょうど昨日は終戦の日でしたので、こんなことを思いだしました。

植村先輩ほど、過去、現在と、ずっと写真を撮られた方は多くなく、貴重な資料をたくさんお持ちと思います。やり残したお仕事も多いものと存じます。

先輩のご逝去は私どもにとってひじょうに残念至極なことで、私個人にとっても話のできる、よき先輩をなくし、ひじょうに寂しい限りでございます。

植村先輩、天国から我々やご遺族の方を見守ってください。そしてこれからご指導ください。

心からのご冥福をお祈りし、花葉会を代表いたしまして弔辞とさせていただきます。

さようなら

平成18年8月16日

花葉会代表 横井 政人

### 植村 猶行氏 略歴

大正14年5月	四国志度町に生まれる
昭和24年3月	千葉農業専門学校卒業
昭和24年4月	誠文堂新光社に入社
昭和56年3月	退職
	この間、「農耕と園芸」「ガーデンライフ」などで活躍。「植物特許法制定促進協議会」での活動を通して品種保護法の成立に尽力した。
昭和34年6月	園芸文化協会の参事に就任、以降、理事、常務理事、評議員、会計監査役等を歴任して、約40年間同協会の活動を支えてきた。
昭和37年5月	日本ペゴニア協会を設立。 常任理事、理事長を務める。 エフ・ジー企画を自営の傍ら、テクノ・ホルティ園芸専門学校客員教授、RHSJ監事等で活躍。
	(「花葉」18号1999 自叙伝抜粋より)

訃報 花葉会相談役の植村猶行氏が平成18年8月12日にご逝去されました。通夜は8月15日、告別式は8月16日、中野の天徳院会館で執り行われました。

ご遺族のお話では、植村氏はお酒もタバコも飲まず、ただひたすら花と花関係の本の出版に終始なされたとのこと。最後までツバキの本の校正を気にしておられたそうです。

ご遺族、花葉会、日本ペゴニア協会等、ゆかりの方々に見守られる中、故人のお好きなペゴニアの花々に包まれ、旅立って逝かれました。ご冥福をお祈り申し上げます。